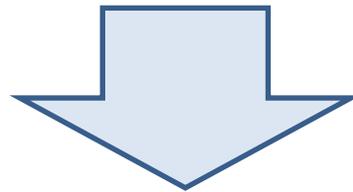


# 事務局説明資料

平成28年5月16日  
金融庁総務企画局

# フィンテック・ベンチャーに関する有識者会議

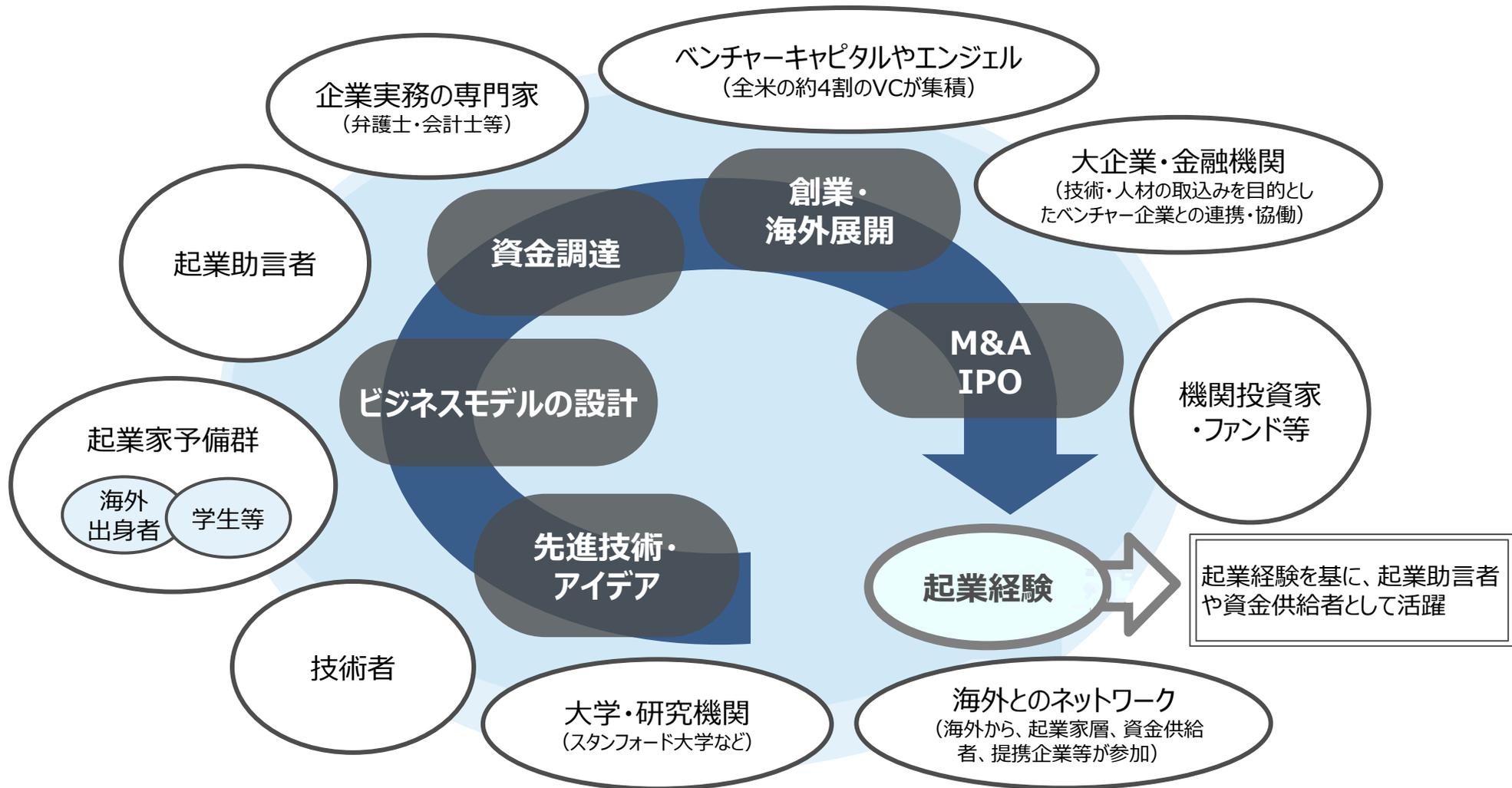
- 近時、FinTechの動きが注目を集めている。他方、欧米等に比べ、我が国では、先進的なFinTechベンチャー企業やベンチャーキャピタルの登場が未だ必ずしも実現していないとの指摘。
- 我が国の強みを活かしつつ、海外展開を視野に入れたFinTechベンチャー企業の創出を図っていくためには、技術の担い手（研究者、技術者等）とビジネスの担い手（企業、資金供給者、法律・会計実務家等）など、幅広い分野の人材が集積し、これらの連携の中で、FinTechベンチャー企業の登場・成長が進んでいく環境（エコシステム）を整備していくことが重要。



**「FinTechエコシステム」の実現に向けた方策を検討するとともに、こうした動きが金融業に与える影響等について議論**

# シリコンバレーのエコシステム

約4,800平方キロの地域に、関係者が集積。この中で、世界トップレベルのIT企業が成長し、年間約1.7万社のベンチャー企業が創業。



# 検討の視点の例

## 日本のFinTechベンチャーを巡る環境

- 学生や若手研究者、海外出身者らが我が国でFinTechベンチャーの起業を目指す動きは、限定的。
- 技術コミュニティ（技術者、大学・研究機関等）と金融・ビジネス・コミュニティの関係構築は、発展途上。
- 起業経験者や専門家等が関わりながら、アイデアを実際のビジネスとして孵化（インキュベーション）させていく循環が形成されていない。
- グローバルに展開するFinTech企業が少ない。FinTechに関する国際的な連携やネットワークが弱い。

## 検討の視点（例）

- 学生や研究者等の潜在的人材が、実際に起業を目指す流れを作り出していくための課題は何か。
- イノベーション促進の観点から、FinTech分野におけるビジネスと技術コミュニティの関係をどう考えるか。
- 様々な領域の人材が集積し、連携していけるような環境のイメージ、またその構築のために何が必要か。
- 日本発の国際的FinTechベンチャーを産み出していくための取組みとして何が必要か。
- FinTechの進展は金融機関のビジネスにどのような影響を、どのような速度で及ぼすか。